

忘れない、寄り添う、 「息の長い支援」は神戸から

日時：2014年 7月12日（土）・13日（日）
8月30日（土）・31日（日）
9月 6日（土）・ 7日（日）



集合場所：垂水東口、いかなごのモニュメント前、
時間：午後1時20分

JR・山陽各線垂水駅東口山側すぐ、レバンテ垂水前の広場です。

集合後、路線バスで移動、午後2時～5時、復興住宅(ベルデ名谷：垂水区)をお訪ねします。

阪神淡路大震災で被災された方を、神戸市内の復興住宅にお訪ねし、震災のことや今お困りのことなどの「お話し伺い」をする傾聴ボランティアです。

1回だけでも、初めてでも、お気軽に、ご一緒くださればうれしいです。

050-6863-1039 [電話] kobevolunteer@aol.jp [メール]

ご参加の際は、電話、メール、メッセージにて、予めご連絡くだされば幸いです。

天候によっては中止・変更させていただくこともあります。



神戸・週末ボランティアは、2013年、新たな活動主体

「**神戸・週末ボランティア 新生**」のもと、

リフレッシュ・スタートしました。

不定期ながらも、毎回ニーズや課題に即したテーマを設定する
新たな形態で、阪神淡路大震災の被災者に寄り添い、
共に歩んでいきたいと思ひます。

新聞で紹介されています！ 産経新聞 神戸版 2010.11.28
若者にも被災者支援の輪 神戸市民グループ「週末ボランティア」



This is 神戸・週末ボランティア <http://kobevolunteer.web.fc2.com/>
(純正サイト Yahoo! JAPAN 登録)

[Facebook](#)・[Mixi](#)・[Google+](#)・[Twitter](#) - [welove_kobe](#)、もよろしく!

おかげさまで 仮設・復興住宅訪問通算600回！

神戸・週末ボランティア 新生が2014年3月30日に行った復興住宅訪問活動は、「週末ボランティア」(旧)が、阪神淡路大震災後、取り組みを始めて以来、通算600回目となりました。

阪神淡路大震災から早くも20年になろうとしています。新たな活動主体のもとで、今だからこそ、これまでの被災地に根ざし、これまでの被災者に寄り添おうと、神戸市内の復興住宅に改めてお訪ねし、「お話し伺い」～傾聴ボランティアをさせていただいています。

1月には、三宮・東遊園地の一角にともる「希望の灯り」の分灯とともに、お訪ねしました。3月30日には、旧グループでの仮設住宅訪問以来、通算600回目の訪問活動となったほか、リフレッシュ・スタート以来の訪問戸数も、重複なしの実数ベースで1000戸を超えました。

そこで今季も、昨秋以来取り組んできた、神戸中心部から西側に遠く離れ、深い山間の急斜面上に聳え立つ復興住宅をお訪ねすることになりました。長年にわたって築き上げ、慣れ親しんできた地域コミュニティ、生活手段、その他の環境から、空間的にも隔てられ、社会的にも異質な状況にあることを、長きにわたって強いられているものです。

東日本大震災の被災地・被災者においても、同様の問題が不可避になろうとしている中で、こうした「切り離されて暮らすこと」を通じた、役立ちと学びの意義は、さらなるものとなっています。

1回だけでも、初めてでも、お気軽に、ご一緒くださればうれしいです。



平成26年(2014年)3月23日 日曜日

復興住宅訪問600回へ

神戸のボランティア団体 HPで問題共有

阪神大震災の発生から20年目に入り、復興住宅の住民が抱える問題を尋ねようと、ボランティア団体「神戸・週末ボランティア」が22日、神戸市垂水区の市営住宅「ベルデ名谷」を訪れ、入居する高齢者らから話を聞いて歩いた。

震災直後に築足した前身団体が、訪問回数は今月30日で通算600回に達すると、ボランティア「神戸・週末ボランティア」は週末に不定期に復興住宅を訪ね歩き、ホームページ上で情報共有を図って問題の共有化を図っている。

東日本大震災の発生後は東北の復興に関心が移り、阪神大震災当時の動向が引退を迫る世代に苦しみ健康を損ねたり生活保護の医療扶助がたりして問題は山積しているという。

メンバーは20日、集合住宅内を次々と訪問し、入居者の女性70から「隣に誰が住んでいるかわからない」と話した。

同団体の主宰、原英樹さん(48)は「震災から時間を重ねることで見える問題もある。これからは活動を続けたい」と話した。

神戸・週末ボランティアは「神戸・週末ボランティア」の元高校教諭原英樹さん(48)が呼びかけた。原さんは大阪府池田出身で、震災後、仮設住宅や復興住宅を訪ねる神戸の市民団体「週末ボランティア」に参加。昨年1月に「新生」を立ち上げた。これまで70代の女性は「表れがない部屋もあり、隣の部屋に誰が住んでいるかも分からない」と不安を打ち明けた。須磨区の自宅が全壊した別の男性(71)は病気で車いす生活。「ベッドに座るのもつらい」と語った。

フェイスブックで知り、活動に参加した垂水区の森葉幸代さん(40)は「高齢になってから新しい人間関係をつくるのは難しい」と「ミニミニ」の課題を指摘。原さんは「復興住宅が抱える問題は△△ではない。将来の災害に備える一助にもしたい」と話している。今月23、29、30日にも行く。ホームページは「神戸・週末ボランティア」で検索。

神戸・週末ボランティア 新生は、宗教や政党など全く関係のない民間のボランティアです。寄付や署名の要請、投票依頼、販売行為などは一切行いませんので、ご安心ください。

☆新聞で紹介されています☆
産経新聞：「時間重ねて見える問題も」復興住宅訪問600回に神戸のボランティア団体
神戸新聞：住民の悩み聞き続け神戸・週末ボランティア 新生 「将来の一助に」復興住宅訪問、仲間募る(2014.3.23神戸版)



復興住宅に住む女性から話を聞くボランティア団体主宰の原英樹さん(右)＝神戸市垂水区

神戸新聞 (第3種郵便物認可)

住民の悩み聞き続け

復興住宅訪問、仲間募る

神戸・週末ボランティア新生 「将来の一助に」

ボランティアグループ「神戸・週末ボランティア」が、阪神・淡路大震災の災害公営復興住宅を訪問し、住民の抱える悩みを聞き取り、募っている。

グループは、東灘区豊島区(約30回)、中央区と垂水区の元高校教諭原英樹さん(48)の復興住宅で聞き取りをし、府池田出身で、震災後、仮設住宅や復興住宅を訪ねる神戸の市民団体「週末ボランティア」に参加。昨年1月に「新生」を立ち上げた。これまで70代の女性は「表れがない部屋もあり、隣の部屋に誰が住んでいるかも分からない」と不安を打ち明けた。須磨区の自宅が全壊した別の男性(71)は病気で車いす生活。「ベッドに座るのもつらい」と語った。

フェイスブックで知り、活動に参加した垂水区の森葉幸代さん(40)は「高齢になってから新しい人間関係をつくるのは難しい」と「ミニミニ」の課題を指摘。原さんは「復興住宅が抱える問題は△△ではない。将来の災害に備える一助にもしたい」と話している。今月23、29、30日にも行く。ホームページは「神戸・週末ボランティア」で検索。

神戸・週末ボランティア 新生は、宗教や政党など全く関係のない民間のボランティアです。寄付や署名の要請、投票依頼、販売行為などは一切行いませんので、ご安心ください。